

No. 1022

チビッ子の夏休み

—千葉—

午前6時、起床ラッパが響き渡る。まだねむそうに目をこすりながら60人のチビッ子がテントから飛び出した。千葉県・松戸市、自衛隊松戸駐とん地は、このところ夏休みの小・中学生の*入隊。で大にぎわいだ。隊員たちの側で国旗掲揚に臨んだチビッ子たち、いつもわんぱくなチビッ子もこの時ばかりは緊張した顔付だ。小型テントの組立て実習や隊内見学、風にふかれて大きくふくらむ落下さんに驚きの表情を示すチビッ子。『教育への介入だ』と一部批判はあるものの『子供たちは大人が考える程ではない。海や山へキャンプへ行ったのと同じ気持ちで楽しんでいるようです』と付添いの主婦。一泊二日の日程で(三食つき)377円と格安な値段も魅力の一つ。チビッ子の*入隊。希望者は夏休み中、後を絶たないとか。

補償金などは欲しくない

—東京湾漁民の訴え—

8月8日、千葉県内房内湾漁民はついに海上封鎖に踏みきった。水銀使用即時中止、水銀ヘドロの処理、24億円の漁業補償を水銀使用3工場に要求しつづけてきた漁民側。海上封鎖は要求を受け入れない企業側に次第に追いつめられた漁民の残された唯一の手段であった。90隻の漁船が3工場の4岩壁を囲み、要求が通るまでは絶対に海上封鎖を解かない強い姿勢をみせた。漁民は陸上からも、要求に誠意ある回答を示せと、操業停止を訴え定期便のように毎日工場へおしかけた。

(漁民)工場も本社も現在の事態に対して操業を停止して誠意をみせる意志があるのか聞いてんだよ。

(企業)扱っている品物が水素でありまして爆発物でもあります。従って実施するにしてもそれなりの時間とか対策が必要であり、その点については今検討中です。

(漁民)現在12時、準備の時間が何時間あったら操業中止できる。これをはっきり確言しろよ。いいか、よく聞きなよ。金ばかしが補償の対象じゃないんだぞ、おめえらそんな精神なら漁民と話し合いしたんなら又たれ流しか、おれらはそういう気持ちもつぞ、我々は将来も信用しないぞ。

(漁民)もう少し社会的責任をとってもらいたい。単なる漁民問題じゃない。

人の世の終末をみせつけた水俣病が水銀汚染による公害病と認定されてから14年。しかしその間、汚染は拡がる一方で現在11水域にも及ぶ。一体、この14年の間にどれだけ汚染をくいとする努力はなされたのか。これまで、被害者が行動を起こさない限り、真剣に取り組もうとはしなかった企業や行政。そして最後は補償金に問題はすりかえられ、政治的仲介で片づけられてきた過去。

(漁民)34年でしょ。10年の間にあれだけ国民的な大きな動乱を起こしておいて、あれがあんたたちにはわからなかったのかしかも、10年の間に5屯近くも流しておいて。根本的な思想がおかしいんだよ。

過去のつづを踏んではならないと、漁民は補償よりも、水銀使用即時中止を叫んでゆずらなかつた。漁民は長期間にわたって闘う構えを見せた。海上封鎖4日目の8月11日、企業側はついに48時間の水銀使用の電解工場部門の操業停止を決めた。企業側があっせんを依頼した友納千葉県知事と企業側の話し合いの結果、決定したことであった。そして、この日、県知事のあっせんによる企業側と漁民側の話し合いはすすめられた。又しても政治的仲介に問題解決はゆだねられた。3回にわたるトップ会談は夜遅く結論に達した。

(県知事)話し合いの結果結論から申し上げますが11億円で妥結しました。

海上封鎖操業中止とエスカレートした漁民の闘いは、急転直下、県知事のあっせんで、政治的かけひきの中で終わった。汚染魚発見、出荷停止、休漁、そして政治的かけひきによる補償転換。このパターンをいつまで繰り返すのか。このパターンが繰り返される限り、*補償金などは欲しくない、という叫びに秘められた人の生命と生活の重みは、葬り去られてしまうのだ。